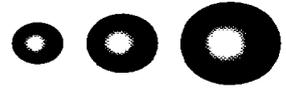


Hand in Hand 21 Plus

ハンド・イン・ハンド 21 プラス

名取市男女共同参画情報紙
プラス 3号 2004年9月



空は広いな 大きいな！

大空をはばたく深雪（みゆき）先生
航空大学校仙台分校操縦教官
堀越深雪さんとのインタビュー

男性と女性という差別を、職場で感じたことはありません。

男女という性差別は、自分の心の中にありました。

- ・当校を卒業した女子学生は、今までに 11 名います。自分もその 1 人です。
- ・海外の女性パイロットは、仕事を続けながら結婚し、出産・育児をこなしています



チャンスがあれば、ジャンボ機の操縦もしたいと話す堀越（ほりこし）教官



学生に教えている訓練機（C90Aキングエア）の前で撮影

ハンド イン ハンド
Hand in Hand

21 プラスは、
名取市男女共同参画推進委員会の手づくり情報紙です。

Q) 堀越教官の出身はどちらですか。

A) 群馬県高崎市です。カカア天下で有名な県でもあります。 「女の子は女らしく、男の子は男らしく」をモットーに育てられました。

Q) パイロットという職業を選んだ理由を教えてください。

A) 一番の影響は母です。母は「スチュワーデスになりたかった。」といつも話していました。そのためか、「自分も航空関係の職業に着きたい」と小さい頃から思っていました。

Q) 女性の教官だから、これは不都合だなと感じたことはありますか。

A) 全くありません。それより、「自分は女性だからこのような振る舞い方でいいのかな？」などと、余計なことを考えてしまう時があります。

そんな時『ジェンダー』とは怖いものだと思ってしまいます。

このような男女の性差別は、自分の心の中にあっただのですね。

障害をもたらしているのは、紛れもなく自分だったと気づきました。

用語解説 ジェンダ

男は男らしく、女は女らしくのように、社会的・文化的・歴史的に形成された性別のこと。

Q) パイロットという職業は、誰でもなれるものではないと思いますが、これからめざす若者に、アドバイスをお願いします。

A) 私は、この職業について人は、別に特別な人間がなったとは思っていません。

パイロットになるかならないかは、駄目でもともとで、それに飛び込んだか、飛び込まないかの違いだけだと思います。もし、自分のなりたい職業があれば、まず挑戦してほしいと思います。

Q) いつも心がけている事など教えてください。

A) 「初心忘るべからず！」ということばどおり、学び始めた最初の新鮮な気持ちや、学生だった頃の緊張感、切磋琢磨してきた事や、自分なりに乗り越えてきた悩みなど、学生に教えるという立場から、絶対忘れないようにしています。

学生が就職するところは、すべて危険が伴います。一歩間違えると、自らの命を落とす羽目になります。

ふざけ半分の訓練では、絶対死に繋がります。言わなくてはならない事は、相手が傷つこうが、何であろうが、容赦なく注意するようにしています。

《 編集スタッフ 》

名取市男女共同参画推進委員会 広報啓発部
泉 勝 ・ 相澤喜美 ・ 洞口ミツヨ
小林和子 ・ 鈴木英夫 ・ 洞口のり子

問い合わせ先：名取市男女共同参画推進委員会事務局 企画課女性市民参画係まで

384 - 2111 (内線 336) FAX 384 - 9030